Volume 129（2018 年 3 月）

JRRN Newsletter

日本河川・流域再生ネットワーク http://www.a-rr.net/jp/ https://www.facebook.com/JapanRRN

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目 次 *Pages*

- JRRN 事務局からのお知らせ…… 1
- 会員寄稿記事…… 4
- 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介……7

JRRN 事務局からのお知らせ（1） *JRRN Activity Report*

「桜のある水辺風景 2018」、募集開始です！

今年も、皆様が撮影された「桜のある水辺風景」の写真とメッセージを募集します。水辺の魅力を再発見できるような、素敵な写真をお待ちしております。

▶応募〆切：2018 年 5月31日（木）

詳しくは下記 URL をご参照下さい。

http://jp.a-rr.net/jp/news/info/883.html

募集案内

※「桜のある水辺風景」Facebook ページはこちら。

2016、2017 年の作品がご覧になれます。

https://www.facebook.com/sakuramizube/

※JRRN では、毎年、「桜のある水辺風景」の写真を募集し、応募作品を写真集として取りまとめ、PDF で HP から公開しています。バックナンバーは以下より入手できます。

http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos

（JRRN 事務局・阿部充）

JRRN 事務局からのお知らせ（2）　*JRRN Activity Report*

小さな自然再生普及プロジェクト『第 8 回小さな自然再生現地研修会 in 秋田』開催報告

2018 年 2月27日（火）、本年度 3 回目となる『第 8 回「小さな自然再生」現地研修会』を、秋田県大仙市 大曲地域職業訓練センターにて開催致しました。秋田県建設部河川砂防課との共催で開催した今回の研修会では、地元の自治体や民間会社、市民団体など 100 名を超える参加者にお越しいただきました。まだ積雪の厳しい季節の関係で、研修フィールドとなる雄物川水系斉内川の現地視察は行えませんでしたが、生きものを育み地域が親しめる水辺づくりに関する座学とワークショップによる有意義な研修会となりました。

春季の斉内川の様子

（1）座学研修

「小さな自然再生のすすめ」

（三橋弘宗：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所）

小さな自然再生に取り組むにあたり、生態系の仕組みや生物の棲み分け、環境の評価手法などの理解すべき事項をわかり易く説明していただいた上で、石積みや簡易的な水制を用いた多様な水環境の形成事例から、斉内川での取組みのヒントを示していただきました。

「小さな自然再生と多自然川づくり」

（岩瀬晴夫：㈱北海道技術コンサルタント）

斉内川の検討課題である“生きものが育む水辺づくり”につながる技術論として、講師が手掛けてきた簡易な河岸の保護工・魚道の事例について、長期間にわたるモニタリング結果や原理を図面を交えて紹介され、ワークショップの議論の鍵となる貴重な講演をいただきました。

「できることからはじめよう水辺の小さな自然再生」

（瀧 健太郎：滋賀県立大学環境科学部）

講師自身の県庁職員（河川管理者）としての経験・目線より、小さな自然再生でできること、その波及効果を含めて紹介され、取組みを進める上で不可欠な地域の方々との関わり方のポイントが示されました。

「河川工事における現状と多自然川づくりへの取り組み」

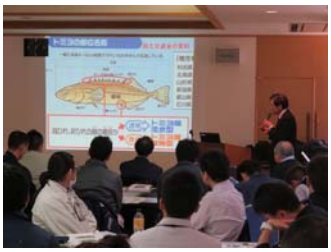
（児玉光広：秋田県建設部河川砂防課）

昨今の水害後の秋田県が抱える河川工事の現状と課題（河川景観・環境の消失・悪化）を交え、多自然アドバイザー制度を活用して斉内川の河川環境へ配慮した取組みを紹介していただきました。

「地域における中学生による自然再生活動」

（青谷晃吉：大仙市教育委員会教育アドバイザー）

30 年以上前に書かれた中学生の論文をひも解き、斉内川に生息している希少魚種のルーツを探るとともに、保全するための条件を地道なモニタリング結果に基づく学術的な知見から講演をいただきました。



座学研修の様子

（2）ワークショップ

「道の駅と直結した水辺の小さな自然再生と地域の賑わい創出」をテーマに、具体的な対策内容をワークショップ形式で提案、意見交換を行いました。 9 つの班それぞれで絞り込んだ最適案を発表した後、講師による総括をいただきながら、全体討議を行いました。協議の詳細については、後日報告書を公開致します。

ワークショップの様子

秋田県では、昨年 7 月、8 月と立て続けに甚大な水害にみまわれ、研修会を延期した経緯があり、開催は難しいのではないかと不安に思っておりましたが、秋田県の方々の熱意に後押しされ、過去最多の参加者で開催できました。年度末のお忙しい中、研修会へご出席いただいた皆様、事前準備や当日の運営にご尽力をいただいた秋田県の皆様に感謝を申し上げます。

本活動は（公財）河川財団 の河川整備基金の助成を受けて実施しています。

（JRRN 事務局・後藤勝洋）

JRRN 事務局からのお知らせ（3）　*JRRN Activity Report*

小さな自然再生普及プロジェクト『第 6 回小さな自然再生現地研修会 in 福井』報告書発行案内

2017 年 10 月 17 日（火）に福井県福井市内で開催しました『第 6 回　「小さな自然再生」現地研修会』の報告書が完成しました。

本研修会では、九頭竜川流域の自然再生の推進、中でも国及び県管理区間～水田～氾濫原までの“連続性”を高めることにフォーカスし、「小さな自然再生」の考え方や留意点、他地域での事例を講義や意見交換を通じて学ぶとともに、志津川及び日野川の現場を視察後、ワークショップ形式で連続性を高めるためのアイデアを深めました。

【研修会プログラム】

（午前）会議室にて小さな自然再生の座学研修

- 小さな自然再生のすすめ
  （三橋弘宗：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所）
- 事例紹介『川人を繋ぎ育む小わざ魚道』
  （浜野龍夫：徳島大学大学院）
- 事例紹介『竹蛇籠で魚道を作ってみた:住民モニタリングと遡上効果』
  （山下慎吾：Sakanayama Lab.／高知工科大学）
- 地元の取組み紹介『天王川における連続性確保に向けた魚道整備』（前川圭輔：福井県河川課）
- 地元の取組み紹介『九頭竜川水系のグリーンインフラ的取組み』（中村圭吾：国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所 事務所長）

（午後１）日野川・志津川現地研修

（午後２）ワークショップ

「魚類の遡上環境の改善～九頭竜川流域の連続性確保に向けて～」（ファシリテーター：三橋弘宗：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所）

- グループ討議：　全参加者でアイデア出し討議
- 全体討議：　各グループアイデアについて討議

今回発行した報告書は、研修会を通じて九頭竜川流域の連続性確保に向けて地域でできることについて参加者と共に議論した内容を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。合わせて、報告書後半部の参考資料では、午前の座学研修での講演資料も掲載しています。

特に注目頂きたいのは、午後の志津川視察を受けて実施されたワークショップで計 5 つの班より提案された連続性改善に向けた様々なアイデアです。（報告書 P12～P21）

今回研修会を開催した福井県内に限らず、全国で同様の課題や悩みを抱える現場がある中で、小さな自然再生のアプローチによって連続性改善に向けて地域でできる取組みのヒントになれば幸いです。

最後に、本研修にご協力頂きました、国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所、福井県土木部河川課、及び「小さな自然再生」研究会の皆様に厚く御礼申し上げます。（平成 29 年度河川基金助成事業）

第 6 回「小さな自然再生」現地研修会　開催報告書
ダウンロードはこちら（全 52 ページ・PDF 6.5MB）
http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/212

※水辺でできる「小さな自然再生」の事例、参考資料、研修会成果等は、以下のホームページよりご覧頂くことができます。

■水辺の小さな自然再生ホームページ
→ http://www.collabo-river.jp/

（JRRN 事務局・和田彰）

撮影：2015 年 4 月（東京都羽村市 羽村堰付近 玉川上水）

あの日のあの川 リレー日記 ～第 36 話～

あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです．リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます．

第 36 話 主人公　加藤 達也

（筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 京藤研究室）

（□川ガール・■川系男子）

（出生地を流れる川：東京都多摩川）

「祖父母との思い出 多摩川」

いつのこと？： 幼稚園、小学校、大学院 2 年目（現在）

どこの川？　： 多摩川

このコーナーを多く担当している筑波大学の白川研究室から、なぜか川系男子でも何でもない流体力学系研究室に所属する私にお鉢が回ってきた。川がメインではないが、多少なりとも関連した思い出を少し書いてみようと思う。

自分の記憶の中を探して思い浮かぶ川は、いたち川と多摩川ぐらいだ。横浜の外れ、小学校中学年の頃に住んでいた団地のすぐ横を流れるいたち川は、“親しみやすい“雰囲気の、割に小さな川である。川辺は友達との単なるたまり場だった。だからと言って川らしい遊びはせいぜい暗渠の探検ぐらいしか記憶にないが、そこでカードゲームなりポケモンなりで遊んでいた。親しみやすいよう改修されたのだと知ったのは学部に入ってからだった。

多摩川は、私が生まれたときに住んでいた、東京のはずれにある祖父母の家の近くを流れている。10 分も歩かないうちに川沿いへ出られるくらいだ。幼稚園年少まで祖父母と暮らし、両親は共働きだったということもあり、私と祖父母とのエピソードは多い。

小さい頃は、世話好きで料理上手の祖母に連れられて、色々な場所に行ったとよく聞かされるし、そんな気がする。それは近くの小さな動物園だったり、線路沿いだったり、川沿いの公園だったり。そんなに遊びに連れて行ってもらったのに、本人が一番よく覚えているのは、毎日のように行っていた祖父のおむかえ。夕方、

忍たま乱太郎のオープニングが始まると、そそくさと支度をして、祖母と一緒に近くの踏切まで歩いて行って、電車を見つつ、当時まだ働いていた祖父が帰ってくるのを待つ。車通勤の祖父が来ると、たった 2,3 分なのだが、そこから車に乗って家まで帰るのが好きだった。

せっかちで常に何かしていないと気が済まない祖父とは、私がもう少し大きくなった小学生の頃、よく奥多摩に行った。祖父が当時乗っていた SUV のプラドを運転して、私は助手席で。せっかちだけど、運転はいつも慎重で丁寧だった。ドライブの BGM はいつも決まっていた。「特選 北島三郎 ベスト 35」。2 枚組の CD なのだが、2 枚目はほとんど聴いたことがない。当時、この 1 枚目を聴かされすぎて“洗脳”された私が、北島三郎の曲ばかりを家で歌っていたら、母が祖父に「そんな曲ばっか聞かせるんじゃない」と怒っていたらしい。どうやら母だけでなく父も、最近の音楽ではなくて、だんご三兄弟と演歌にしか興味を持たずに育つのではないかと心配になったようだ。それはともかく、その CD は奥多摩へのドライブに非常に合っていた。序盤の「銀座の庄助さん」が、銀座とはほど遠い郊外からスタートするのにもかかわらず、明るく小旅行の始まりを盛り上げる。「函館の女」が、函館なんて行ったこともないのだが、ゆっくりと流れる車窓に心地よく旅情を添える。奥多摩に近づき、併走している青梅線の線路を見ながら「終着駅は始発駅」が流れ、丁度良く山深くなった頃合いに満を持して「与作」が登場する。へいへいほう。小河内ダムを通り越し、奥多摩湖沿いにある祖父お気に入りのラーメン・そば屋でラーメン半ライスを食べ、温泉に入って帰ってくる。祖父は走り慣れた道だということもあって、奥多摩湖沿いの曲がりくねった道でも上手に走ったし、本人も前の車を指して「慣れてないと、あんなふうにスピード落とさないと走れないんだよ」と自慢していた。車窓もきれいだった。行った回数は言うほど多くはないが、はっきりと覚えている。

撮影：2018 年 奥多摩湖

この記事を書くことになって、今は別々に暮らしている祖父母にまた会いに行った。そのとき聞いたエピソードに屋号の話がある。祖母から聞いた話だ。祖母が小さい頃、まだ屋号というものが普通に使われていたらしい。私からしてみると、屋号は歌舞伎の成田屋ぐらいしか思い浮かばないので、どこかかっこいいという印象だった。よくよく聞いてみると、単に家という単位につけるあだ名ぐらいの勢いだったようだ。例えば、昔天ぷらを揚げたり油を売っていた家は「天ぷら屋」。足の速い子供がいた家は「飛行機」、そんな名前でも、近所ではどの家だか通じたそうだ。もう少しそれらしい「かんばやし」という屋号の家も近くにある。由来は、祖母の実家の裏手、祖父母の家からもあまり離れていないところに玉川上水が流れているのだが、上水土手の雑木林と、そこにあるお稲荷さんを持っていたからだそうだ。その雑木林というのは周りと比べると少し小高くなっているのだが、言い伝えによると玉川上水を掘ったときの残土を積み上げたらしい。そんなこと今までちっとも思いもしなかった。もう少し聞いてみると、その雑木林の近く、上水の土手下に周囲より少し低い部分があり、「上水を作ったときに、掘ってはみたんだけど何か上手くいかなかった」跡らしい。説明書きがあるということなので、祖父と散歩がてら、多摩川と玉川上水に挟まれたところにある福生の“かに坂公園”に行ってみた。それによると、開削された上水が、多摩川出水の影響を受けないように、後に付け替えられたために破棄された堀だそうだ。ふむふむ。そこから「ちょっとここ、不自然に低いね」とか言って堀の跡を確認しながら上水に沿って歩き、取水口である羽村堰まで行った。開削の功労者・玉川兄弟の銅像を見て歴史を感じながら、こういうのってタモリさんが好きそうだなと勝手に思った。

その祖父母とは、毎年のように玉川上水の桜を見に行っている。羽村堰の近くには、桜が上水の沿道に植えられており、なかなか見事だ。せっかちで桜を流し見しつつ鳥を探す祖父と、祖父にあきれながらゆっくり歩く祖母と。今年もそんな季節になる。

（次号は 4 月号に上田純祐さんにバトンを託します）

JRRN 会員寄稿（2）　*JRRN Member Contribution*

水辺からのメッセージ No.106

岡村幸二（JRRN 会員）

広大な野鳥の聖地：

臨海公園では自然観察を楽しみ、海浜公園では水鳥を守り育てる

撮影：2018 年 2 月（東京都江戸川区・葛西臨海公園/葛西海浜公園）

◆ラムサール条約登録をめざす

東京湾臨海部の自然環境を活かした葛西海浜公園は、人工的につくられた 2 つのなぎさと広大な水域には天然の干潟も存在し、数多くの野鳥や貝類・カニ類などの宝庫となっています。現在、野鳥保護関係者の努力もあって次回のラムサール条約登録の可能性も高いようです。

◆重要な湿地の維持と多種多様な水鳥の生息

国際的に重要な湿地を指定するには多くの基準（「9 つの基準」）の確保が必要であり、水鳥の基準としては、「定期的に 2 万羽以上の水鳥を支える湿地」（基準 5 条）の確保と、「水鳥の種又は亜種の個体数の 1％以上を定期的に支える湿地」（基準 6 条）が要件となっています。

JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

会議・イベント案内（2018 年 3 月以降）　*Event Information*

（国内の河川・流域再生に関する主なイベント）

■第 196 回 河川文化を語る会『「みずから命を守る」ための防災・気象情報の活用』

○日時：2018 年 3 月 10 日（土） 14:30～16:30

○主催：公益社団法人日本河川協会

○場所： ウインクあいち（愛知県産業労働センター）11 F「1102 会議室」（愛知県名古屋市）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2749.html

■第１３回川の日ワークショップ関東大会

○日時：2018 年 3 月 17 日（土） 11:00-17:00

○主催：第 13 回川の日ワークショップ関東大会実行委員会

○場所： 筑波大学 総合研究棟 研究棟 B(第三エリア) 1 階 0112 (茨城県つくば市)

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2738.html

■九州北部豪雨災害 2017 復興への資源発見シンポジウム

○日時：2018 年 3 月 17 日（土） 13:00～

○主催：朝倉市に小水力発電を進める会

○場所： 朝倉市杷木地域生涯学習センター らくゆう館ホール（福岡県朝倉市）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2753.html

■第 22 回 荒川流域再生シンポジウム『市民・行政・漁協の連携による里川の再生を考える』

○日時：2018 年 3 月 17 日（土）13:00-16:30

○主催：NPO 法人荒川流域ネットワーク

○場所： 国立女性教育会館研修室（埼玉県比企郡嵐山町）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2728.html

■読本『森里川海大好き！』を広めるシンポジウム

○日時：2018 年 3 月 21 日（水）13:00～16:00

○主催：環境省

○場所： 主婦会館プラザエフ 7Ｆ （東京都千代田区）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2755.html

■2018 年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2018 年 6 月 12 日（火）～13 日(水)

○主催：土木学会水工学委員会河川部会

○場所： 東京大学農学部弥生講堂（東京都文京区）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2703.html

皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報の PR や共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

書籍等の紹介　*Publications*

■ 水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？（2017.3 発行）

・発行：「小さな自然再生」研究会／日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

・発行年月：2017 年 3 月

・ページ数： 16 ページ

水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることからはじめよう 市民による河川環境の評価～（2014.3 発刊）

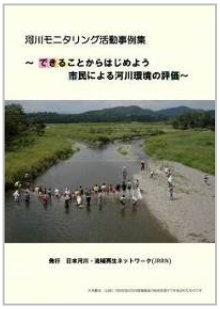
・監修：白川直樹 筑波大学准教授（JRRN 理事）

・執筆協力： 河川再生に携わる市民団体や行政機関

・編集： JRRN 事務局、筑波大学白川（直）研究室

・発行：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

・出版年月：2014 年 3 月



市民が主体的に取組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

上記冊子の「印刷製本版」入手方法　※PDF 版はこちらから： http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。（JRRN 会員限定）

JRRN 会員募集中　*JRRN membership*

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

(1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。

(2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。

(3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。

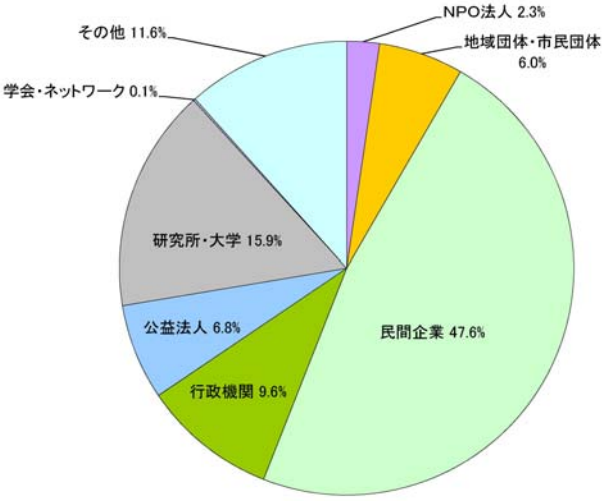
(4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。

(5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧下さい。

http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html



2018 年 2 月 28 日時点の個人会員の所属構成

（個人会員数：772 名、団体会員数：59 団体）

※1 月の新規入会数：　個人会員 2 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員（一般）
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール（週1回）の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter（毎月）及び年次報告書（年1回）等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュール（ARRN Newsletter等）の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：　http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)　事務局

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号　NMF 茅場町ビル 7 階　(公財)リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865　Fax:03-3523-0640　E-mail: info@a-rr.net

URL: http://www.a-rr.net/jp/　Facebook: https://www.facebook.com/JapanRRN

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

公益財団法人 リバーフロント研究所　CTI 株式会社建設技術研究所 国土文化研究所